

『吉原源氏五十四君』解題

佐藤 悟

『吉原源氏五十四君』は「源氏五十四帖」になぞらえて以下の吉原の遊女五十四名を評判した遊女評判記である。現庄
伝わる写本は五十一丁からなり、「浅茅の尼」の序文、続いて以下の遊女の評判が並ぶ。

花紫・薄雲・八重霧・もろこし・小むらさき・小和泉・小さつま・つしま・小もと・桂・志賀さき・鹿背山・巖・
小わかさ・せきしゆ・みゆき・はつね・小宰相・西尾・よし野・三よし・坂くら・松かえ・つねよ・清原・左門・も
しほ・若紫・清はし・むめかえ・さくら木・三笠・小ふし・たんしゆ・せいしゆ・浅妻・藤浪・せきしゆ・はつ野・
花かつら・玉井・万太夫・かく山・篠崎・坂田・津川・よし田・うき嶋・江口・花里・八しほ・たんこ・玉かつら

このほか「源氏之外栄花物語之列」として五十一名の遊女の名を挙げ、最後に「正月晦日相定」と「四国太郎」在判の五
箇条の起請文が載る。

成立は奥書から貞享四年、作者は宝井其角である。本書の内容については野間光辰による日本古典文学大辞典、及び未
刊文芸資料『吉原源氏五十四君』（第三期第三回、古典文庫、昭和二十八年六月）の吉田幸一による解題が詳しい。

『吉原源氏五十四君』の原本は現在伝わらず、転写本が数点知られている。それらはすべて種彦が天保十年に筆写したものを祖本としている。種彦は奥書に次のように記している。

此書三十年前古談州楼にてはじめて見たり原本は三谷とやらんにあるよしと聞きいま友人の蔵せる本を見るに三転四転の物なるべけれどすこしは其角の書体の残りて見ゆるがゆかしさに自すきうつしにしたるは天保十年己亥の春なり画はことさらに意なき人のうつしおきしなればあやしく見わけかたきところもおほかり画人の名は載されとも師宜なるよし談州の話也

柳亭種彦

(51ウ)

さらに翌天保十一年八月二十四日に談洲楼所持の本に再び巡り会い、校訂をおこなっていることが次の識語から知られる。

天保庚子秋八念四日三十年前談洲楼にて見たる本に再度めぐりあひ写誤を改めし○はその本の印原本といへるも

同本の事なり

(51ウ)

原本があったという「三谷」は吉原ではなく、幕府の御用達であった三谷三九郎かその一族であろう。種彦は『柳亭筆記(脱漏)』の「女合羽」の項に、三谷家の女は雨中でも合羽を着用せず、浴衣を上纏うことを記している。また「古談洲楼」というのは初代烏亭焉馬のことで、種彦は一時焉馬の門人を称していたこともある。原本と同様に種彦が焉馬に見せられた写本も、種彦の友人が所持していた写本も伝わっていない。

そこで問題になるのが『吉原源氏五十四君』の原本が版本か写本かということであるが、現在は写本であったと考えられている。種彦自身は原本を見ていないわけであるが、種彦没後に刊行された『高尾年代記』には「印本」と記しているので版本であった可能性もある。しかし『吉原書籍目録』(新群書類従本)には

吉原源氏五十四君 一冊 貞享四年

菱川画名なし 其角自筆耕

西鶴が『一代男』『二代男』の作振りにならひて書きしゆゑ、常の俳文とは異なり、其角が筆の自在を見つべし。貞享四卯年其角と奥にあり、末に起請文を出して四国太郎とあり。

と記すだけで、いづれかはっきりしない。

現存する『吉原源氏五十四君』は西尾市立図書館岩瀬文庫・国立国会図書館・京都大学頼原文庫・東北大学狩野文庫に所蔵されている。岩瀬文庫本は種彦の門人笠亭仙果が種彦本を書写したもので、他の諸本はみな仙果本をさらに転写したものである。笠亭仙果は天保十三年七月二十八日に種彦本を書写している。種彦は七月十九日に没しているので、種彦の死の直前に借りだして筆写したことが判る。

実践本は仙果本とは異なり、種彦の筆跡を忠実に臨模し、特に挿絵に関しては種彦本の面影を偲ばせるものがあるなど、現存する本の中では最も優れたテキストである。ただ実践本がいつ制作されたかは不明である。それを知るためには種彦本がどのような運命を辿ったかを考えてみなければならぬ。頼原文庫本には「柏原徳」という本屋の由来書が附せられており、その中に次のような一文がある。

去る明治八九年の頃大伝馬町丁字屋の本店勝田氏より珍籍を二タ車浅草蔵前の万直、本半阿氏買受此全部悉く関根氏の蔵書と成しも其後如何に成候や此時の本は柳亭翁書入にして滝沢文庫の蔵印有書中七八ヶ所曲亭馬琴翁の訂正ありしのみ他に書入等なし

これによれば種彦の没後、種彦本は曲亭馬琴の手を経た後、勝田氏（三題咄の興笑連の中心人物であった春廼屋幾久であろう）に渡り、さらに関根至誠の蔵書となったことが窺える。

実践本は昭和四十七年の三都古典連合会大入札会で出品(目録番号八四二)されたものであるが、戦前古書肆浅倉屋(文淵閣)に保存されていた(鈴木重三氏談話)という。同様の体裁の本が都立中央図書館に所蔵されているが、これは吉田文積翁(明治三十八年三月二十二日没)のもとで浅倉屋の筆耕を務めていた島田左内により制作されたもの(森銑三氏談話)という。これらのことから実践本は明治期に浅倉屋の手により制作されたと考えることが可能であるように思われる。大正十四年三月に刊行された『版画礼讃』(稀書複製会編纂)に「ほんのおはなし」を発表した三村竹清はその中で表紙について触れ、「今も文淵閣は丹表紙を用ひ」と記しているが、これも傍証になろう。

また挿絵の画工であるが、菱川師宣画としたのは烏亭焉馬であって、根拠はない。

『吉原源氏五十四君』書誌

写本。一冊。縦二七・五糎、横一九・〇糎。

丁数 五十丁。但し第一丁を欠き、第二十五丁が乱丁。第一丁表は他本から類推するに、「吉原源氏五十四君」と題名を打付書きにしてあったものと思われる。裏には次のような浅茅の尼の序文の前半が記されていた筈である。

虚を実に見するは凡夫

三千人に式部ひとり歟也

まことをいふてうそつきに

なる事つたなきかゆへなりと

齒かみをなせとも是非なし

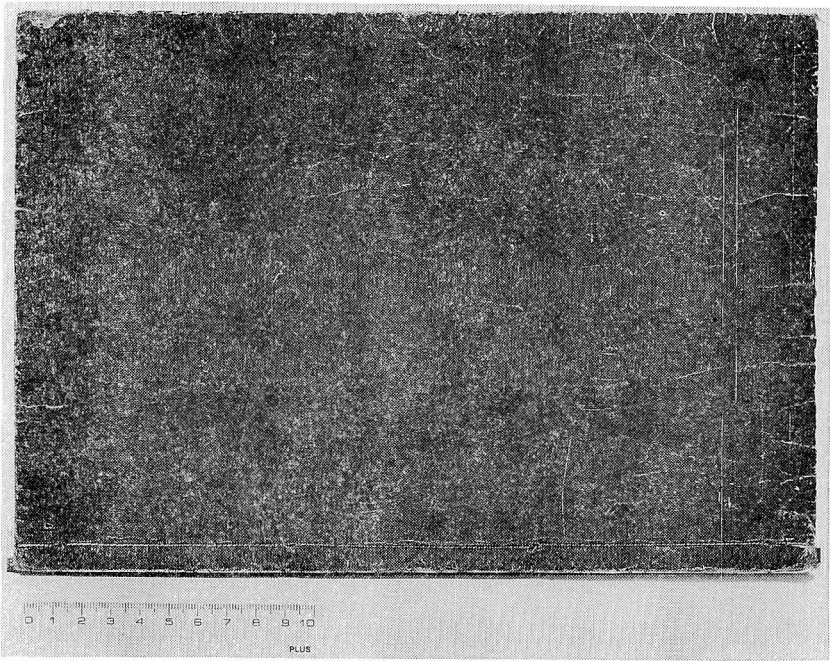
ちよとかそへたれば五十四人

書の名ことく敷によって

備考 柳亭種彦による朱・墨の書き入れがある。

『吉原源氏五十四君』は国会本を底本として続燕石十種に、頼原本を底本に未刊文芸資料に活字化され、影印版が国会本を底本として近世文学資料類従『遊女評判記集（下）』（小川武彦解題、勉誠社、昭和五十四年一月）に所収されている。また珍書保存会により謄写複製されているがこの底本は不明で、関東大震災で焼失した東京帝国大学所蔵旧洒竹文庫本であろうといわれている。この様な状況のもとで実践本を写真版により紹介することは意味があることであろう。

(表紙)



後者の尾

ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ

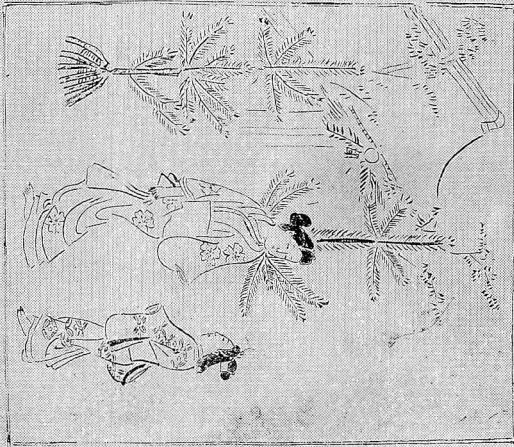
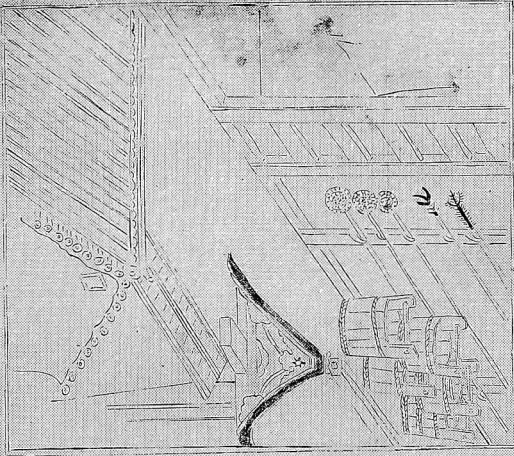
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ

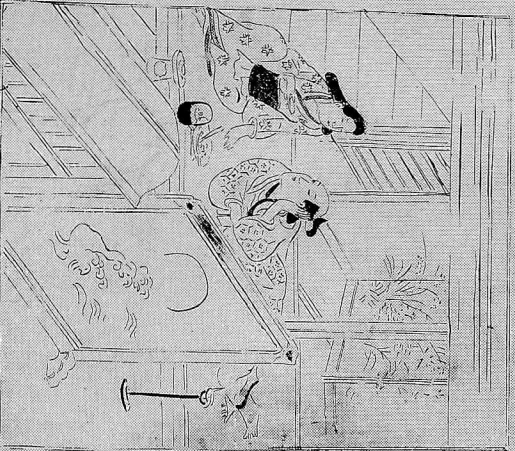
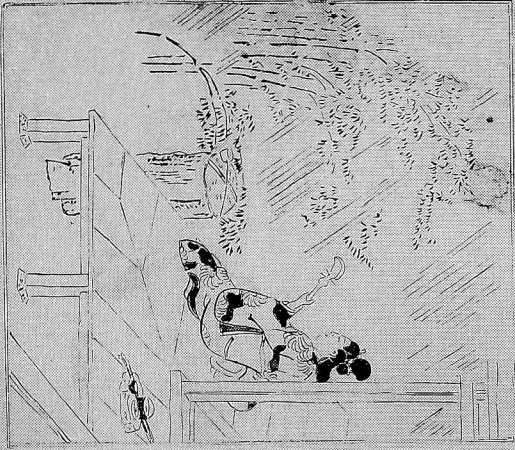


(2本)

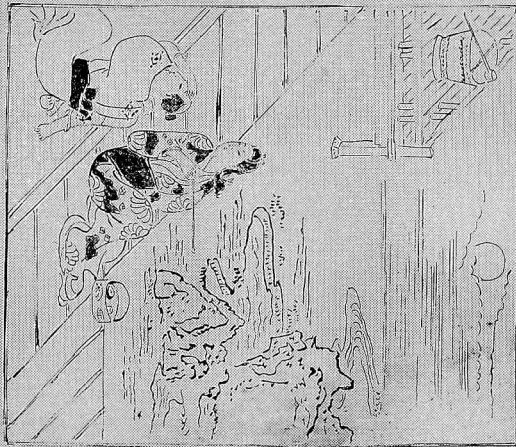
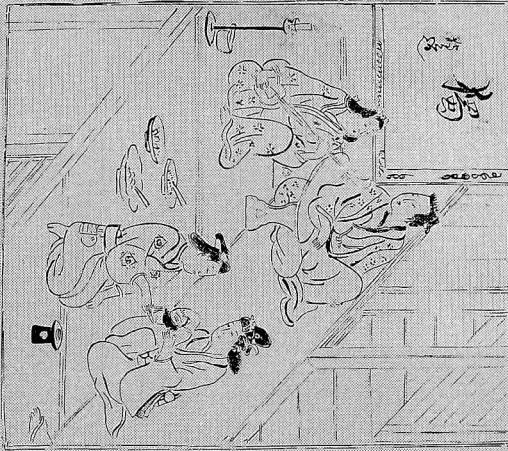
(見返し)



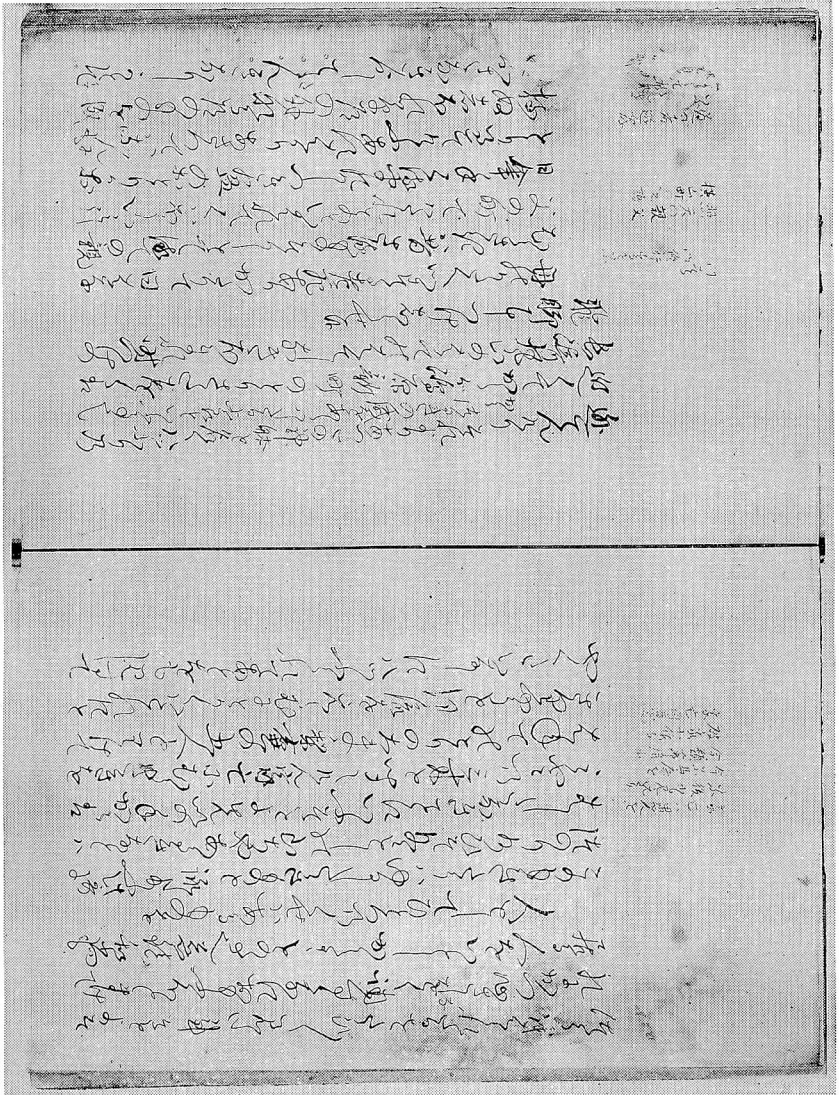
(2 4 ・ 3 4)



(3 7 ・ 4 本)



(4 才 ・ 5 才)



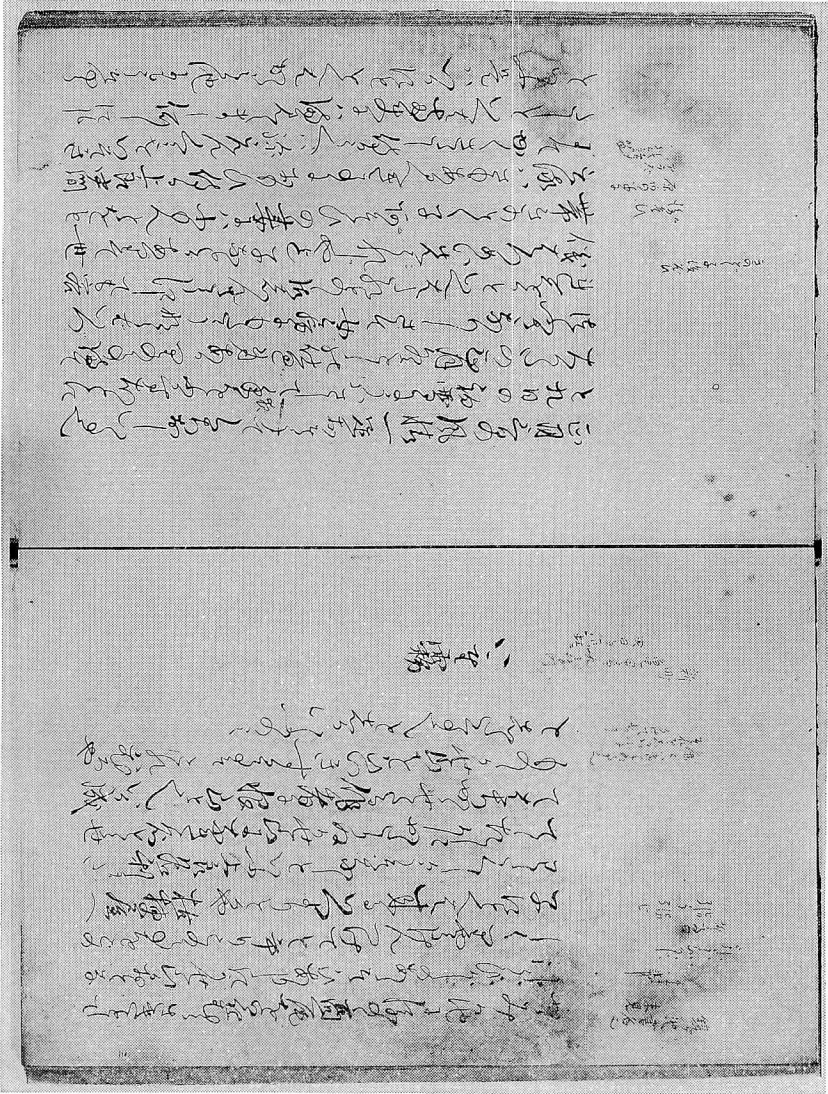
(69 ・ 7 本)

一、...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...



(48・6・4)

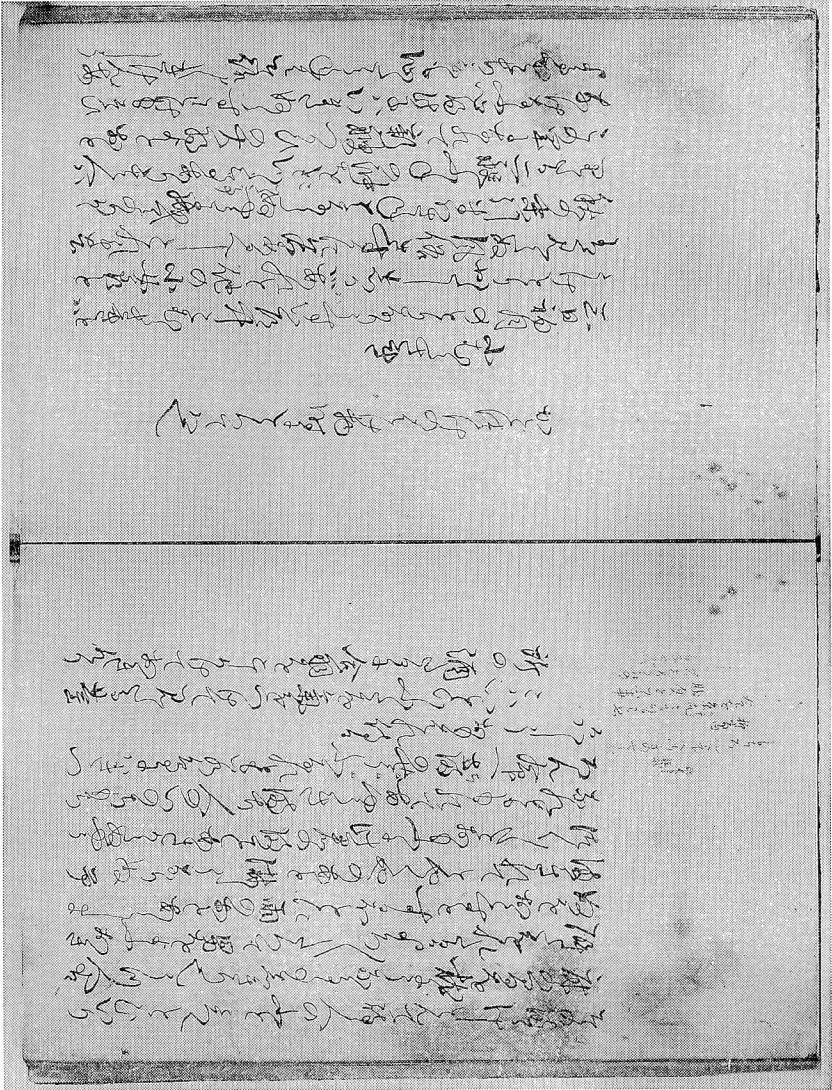
(401 • 46)

Handwritten text in a cursive script, oriented vertically on the left side of the page. The text is dense and appears to be a list or a series of entries.

Handwritten text in a cursive script, oriented horizontally in the middle of the page. It appears to be a single line or a short phrase.

Handwritten text in a cursive script, oriented vertically on the right side of the page. The text is dense and appears to be a list or a series of entries.

(40T・II・4)



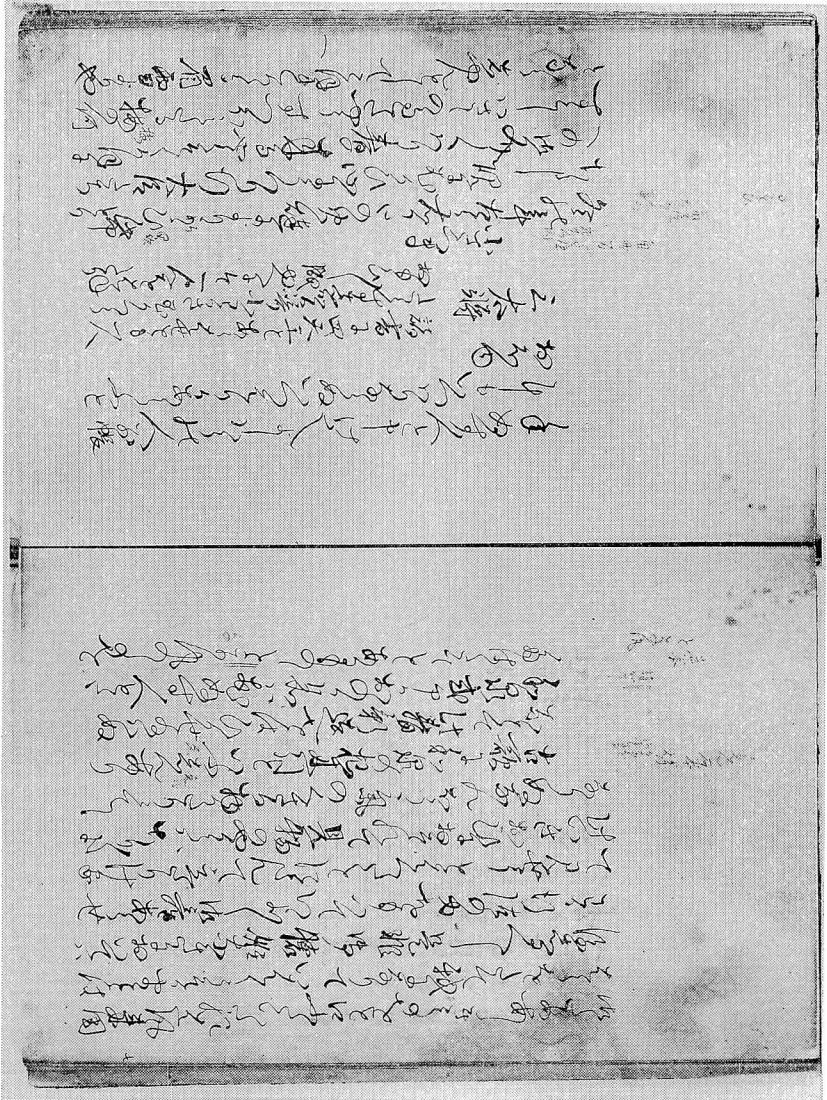
Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, consisting of approximately 12 lines of text.

Small handwritten notes or marginalia on the right side of the upper section.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the upper section, consisting of approximately 10 lines of text.

Small handwritten notes or marginalia on the right side of the lower section.

(117 • 127)



(127・137)

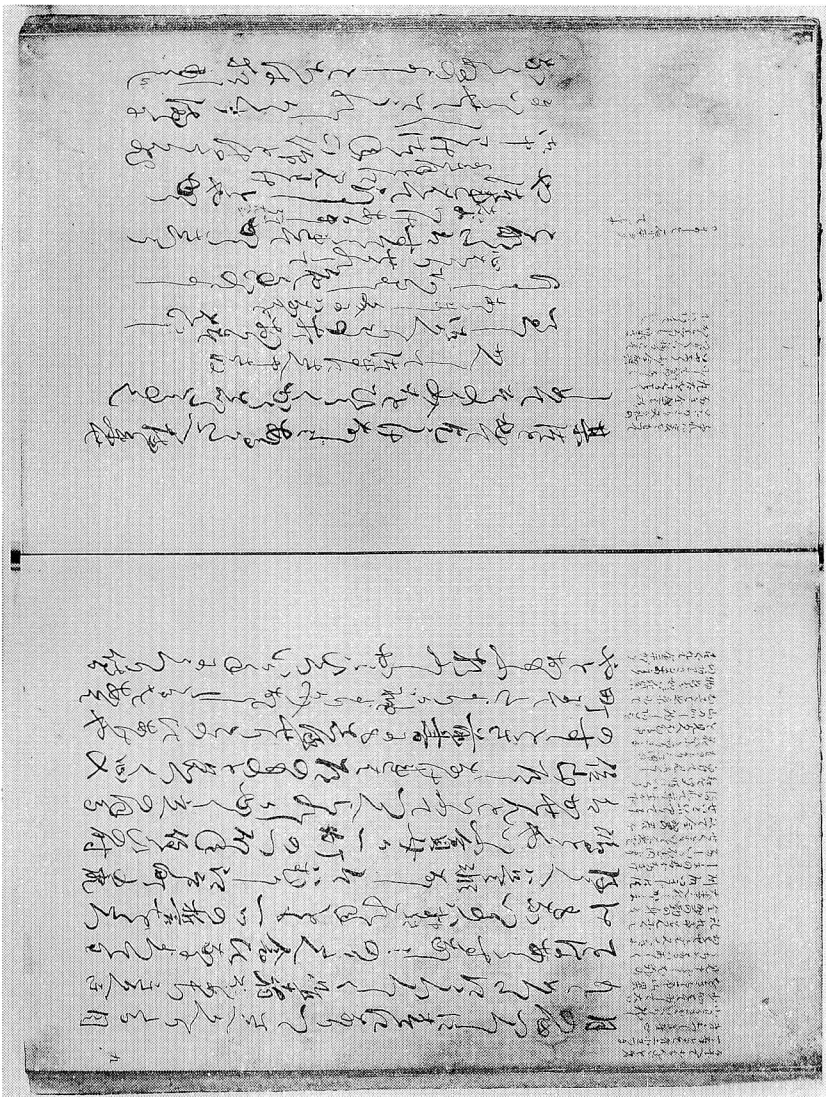
Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten section header or title.

Main body of handwritten text on the upper page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the lower page, continuing the cursive script from the upper page.

(137 • 147)



(147・157)

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name, located in the upper left quadrant of the page.

Vertical handwritten text on the right side of the upper section, possibly a date or a short note.

Small handwritten text or signature located below the main signature in the upper section.

Handwritten text in cursive script, located in the middle section of the page.

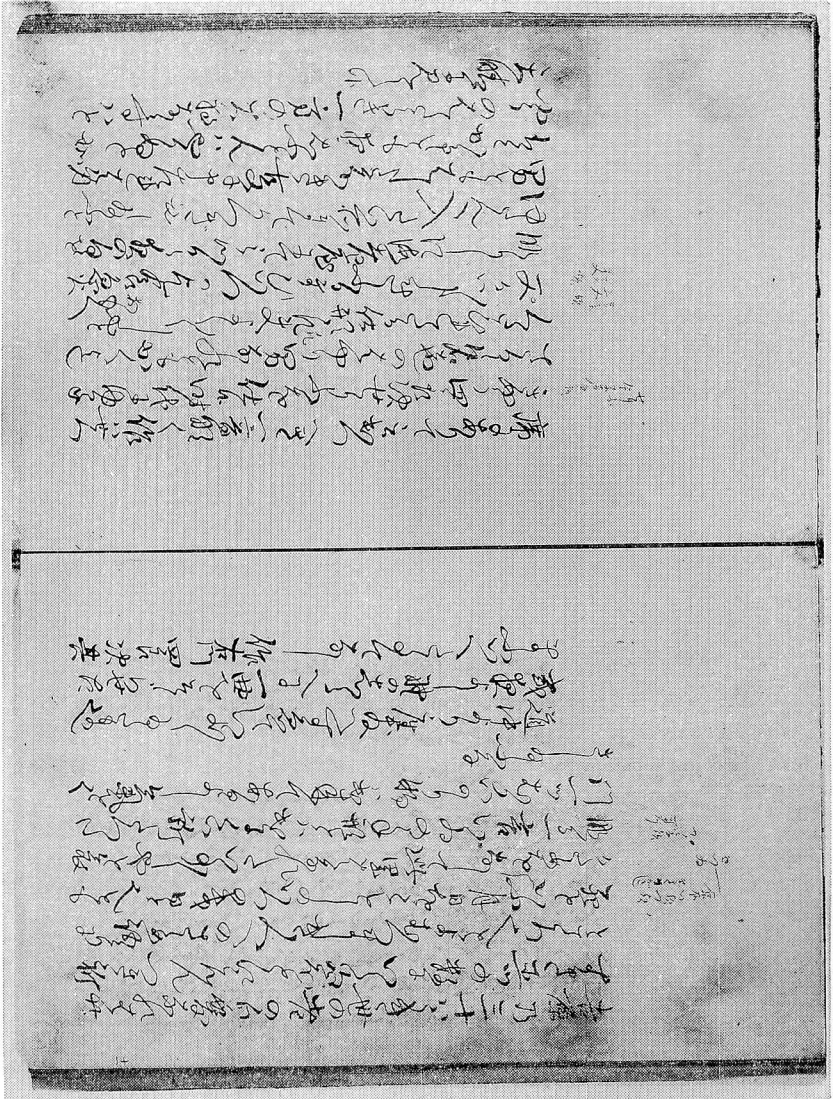
Vertical handwritten text on the right side of the middle section.

Handwritten text in cursive script, located in the lower section of the page.

Vertical handwritten text on the right side of the lower section.

Handwritten text in cursive script, located at the bottom of the page.

(157 • 167)



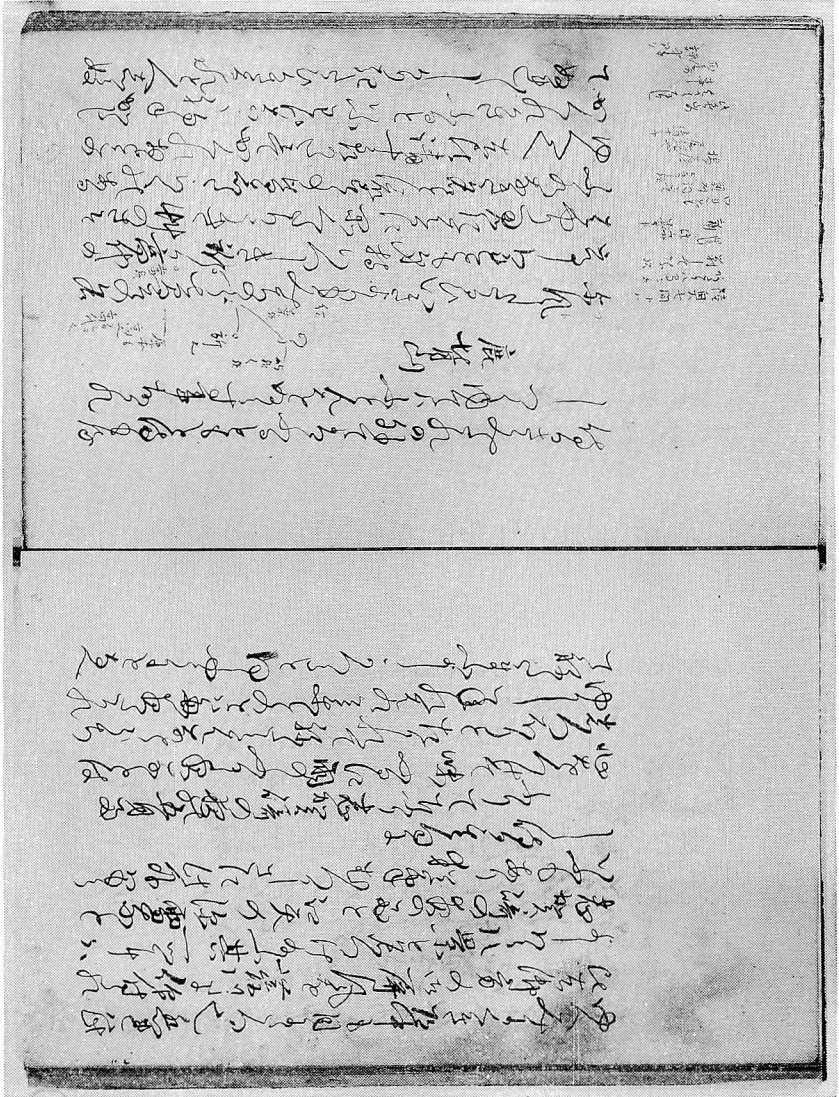
(167・177)

Handwritten text at the top of the page, including the characters "世" and "世".

Main body of handwritten text in the upper section, written in a cursive style.

Main body of handwritten text in the lower section, continuing the cursive style.

(177 · 187)



(187・19本)

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be in a different script or dialect.

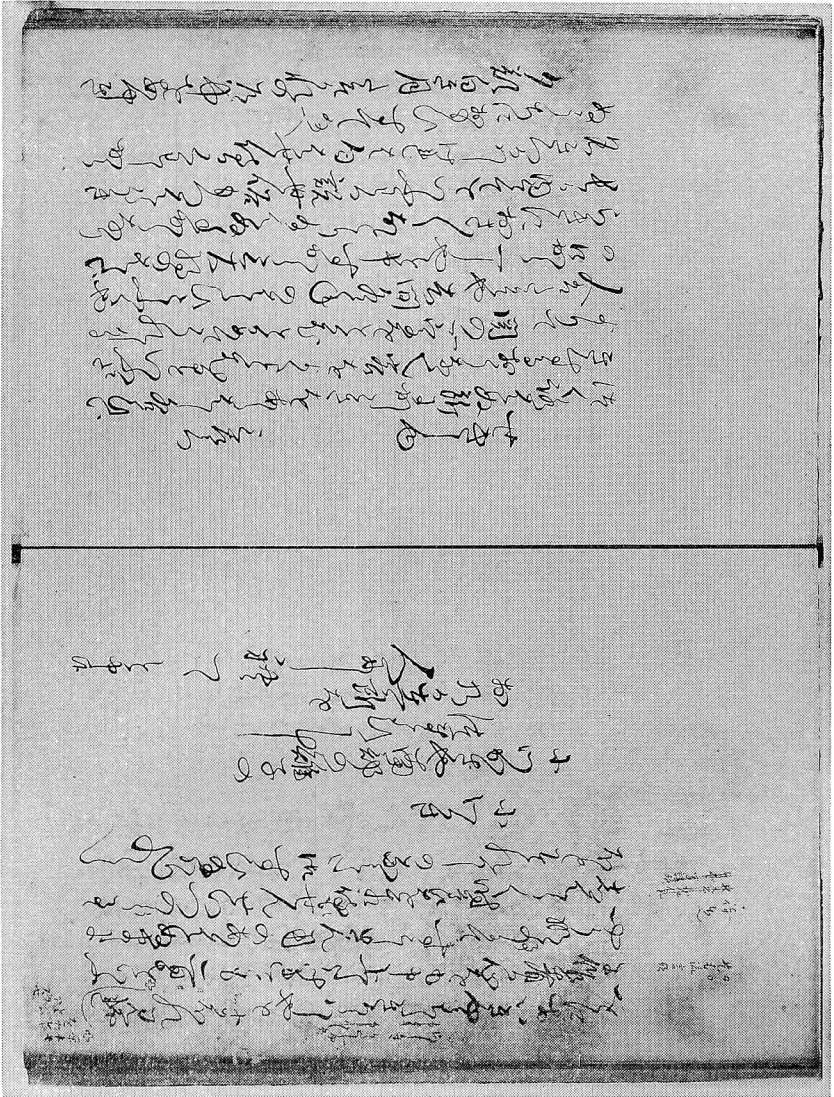
Vertical handwritten notes or annotations on the right side of the page, possibly providing commentary or additional information related to the main text.

Vertical text or a small heading located between the two main sections of the document.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record from the upper section.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record from the upper section.

Vertical handwritten notes or annotations on the right side of the page, possibly providing commentary or additional information related to the main text.



(20頁・21頁)

Handwritten text at the top of the page.

Main body of handwritten text in the upper section, consisting of several lines of cursive script.

第五卷

Main body of handwritten text in the lower section, continuing the cursive script.

(217 · 227)

(25才)

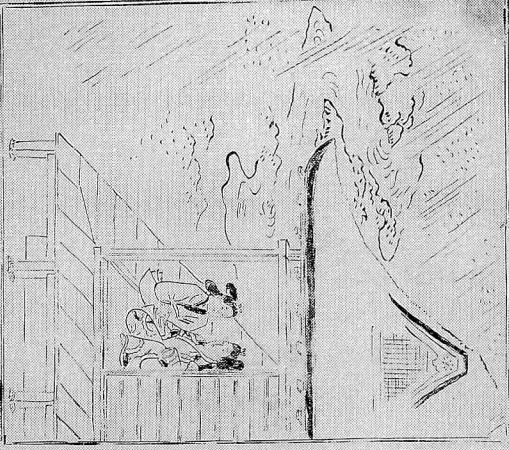
一、此の事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、

一字相

(22才)

一、此の事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、

一字相
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、
源氏物語に
見ゆ。其の
事は、

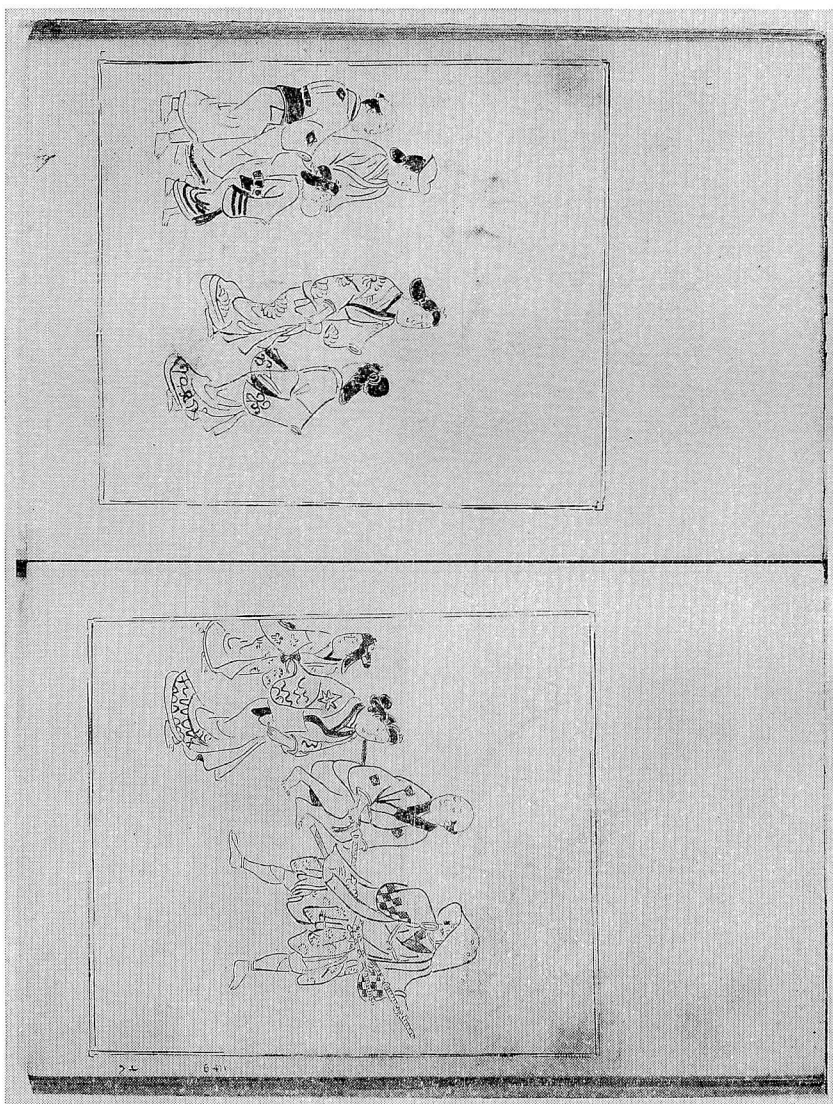


(234)

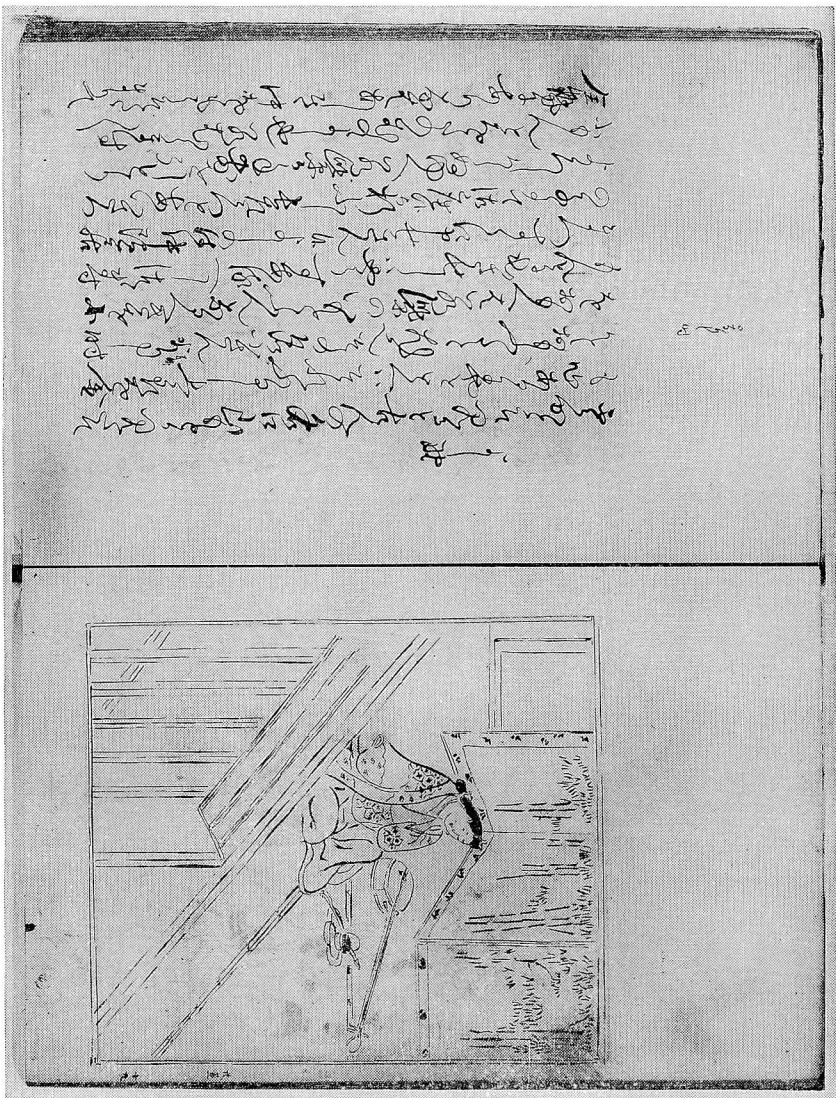
此種之魚...
 其性...
 其味...
 其用...
 其法...
 其時...
 其地...
 其人...
 其物...
 其事...
 其理...
 其法...
 其時...
 其地...
 其人...
 其物...
 其事...
 其理...

此種之魚...
 其性...
 其味...
 其用...
 其法...
 其時...
 其地...
 其人...
 其物...
 其事...
 其理...

(254)

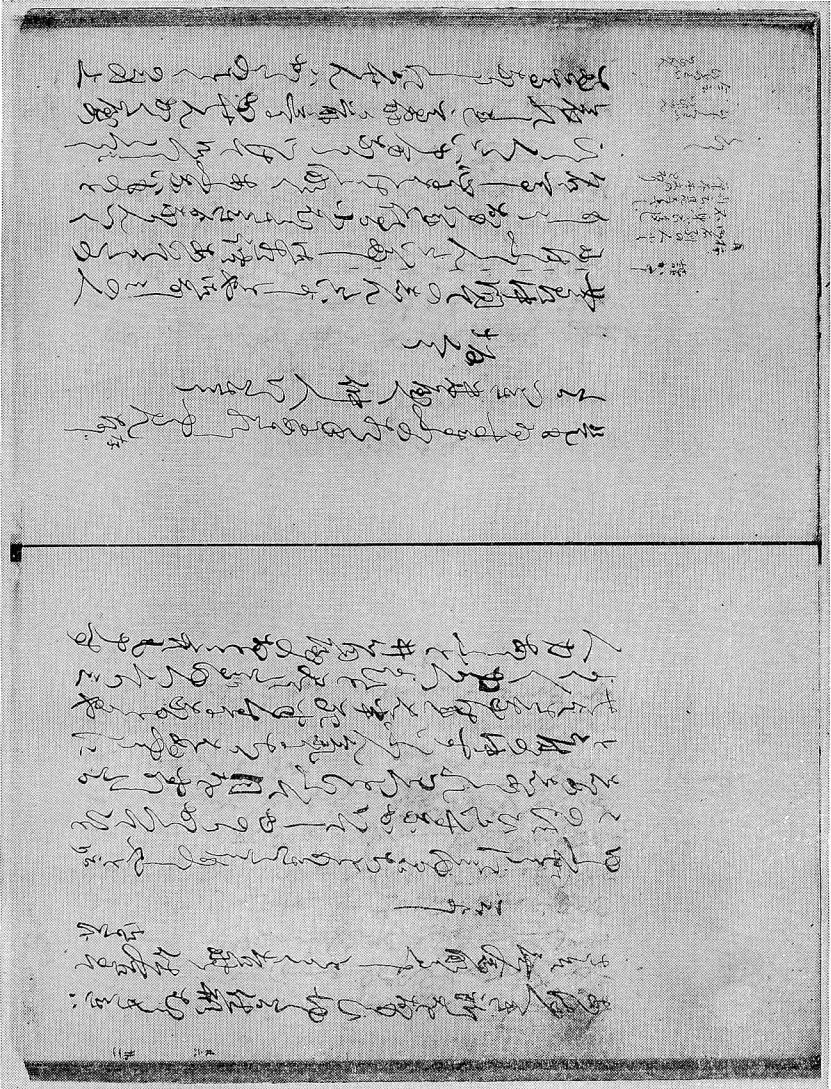


(237・247)



(26A)

(24B)

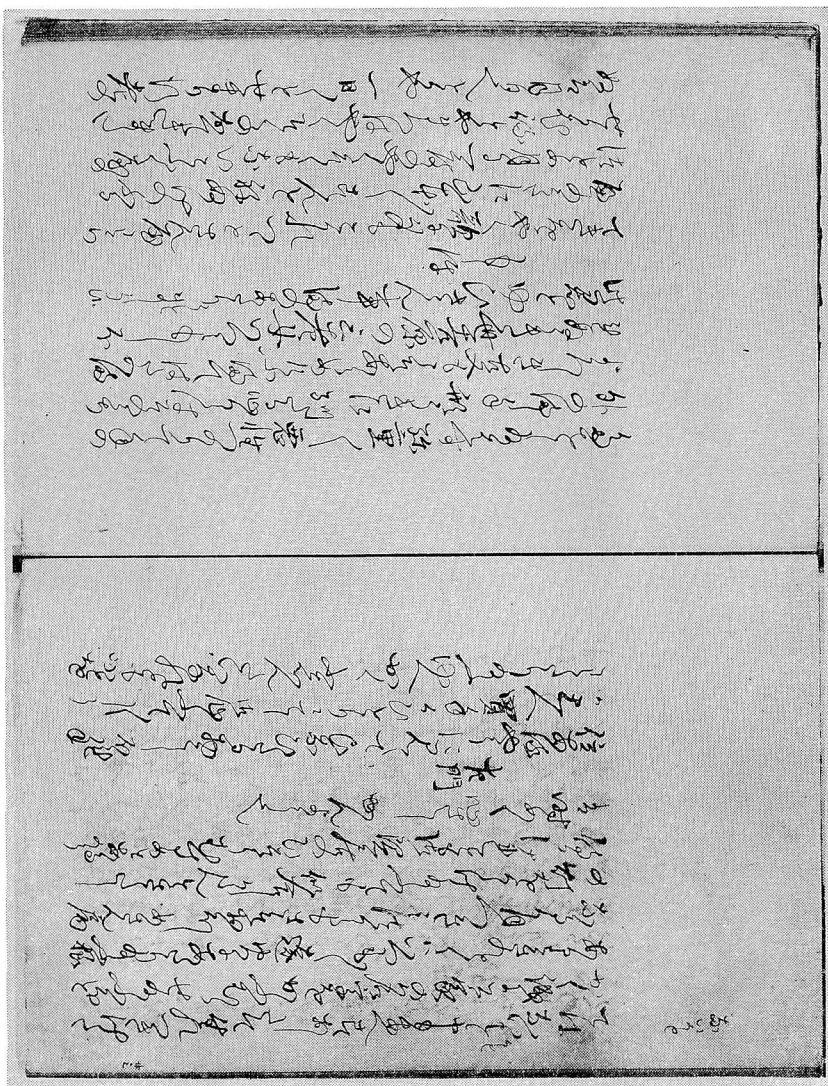


(267・274)

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the top page. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The ink is dark and the paper shows signs of age.

(277 • 287)



(287・294)

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the spread.

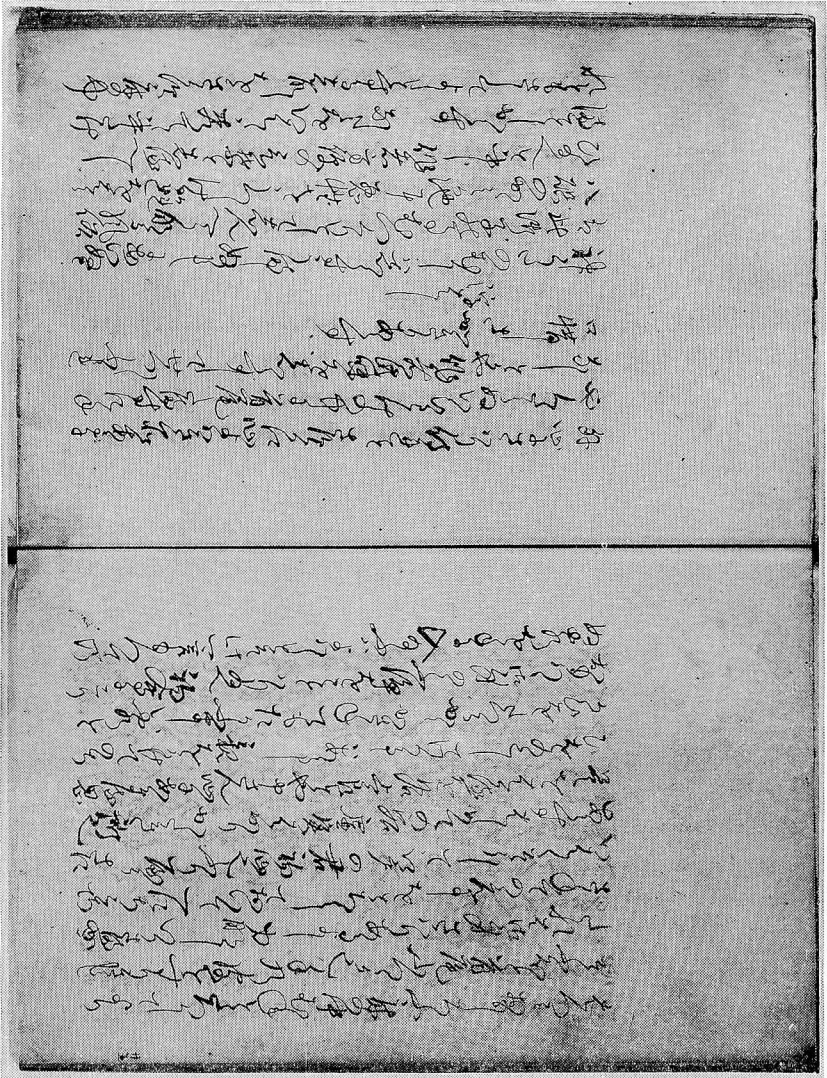
Handwritten notes or a signature in the right margin of the left page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the left page, written on the right page of the spread.

Handwritten notes or a signature in the right margin of the right page.

Handwritten notes or a signature in the right margin of the right page.

(297・307)

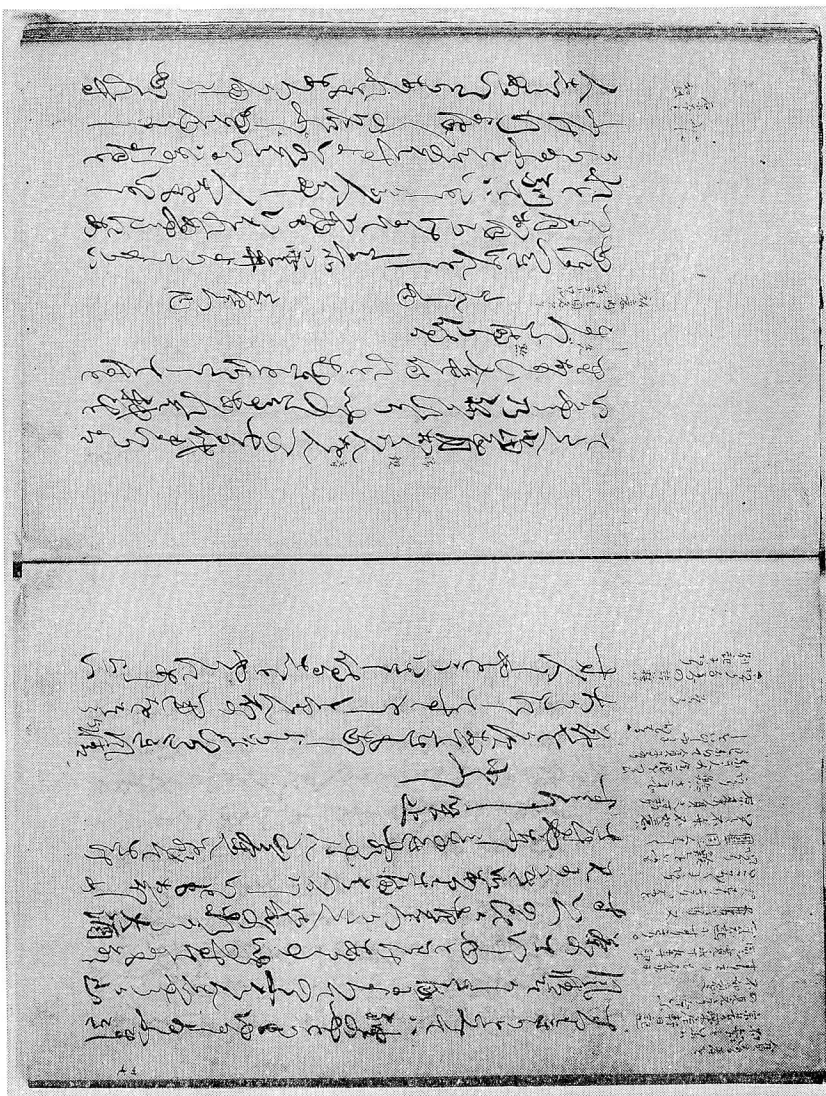


(30フ・31フ)

梅 技 加 註 釋 一 自 後 乃 也
 其 一 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 二 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 三 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 四 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 五 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 六 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 七 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 八 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 九 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 十 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也

其 一 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 二 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 三 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 四 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 五 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 六 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 七 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 八 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 九 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 十 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也

其 一 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 二 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 三 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 四 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 五 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 六 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 七 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 八 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 九 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也
 其 十 注 釋 乃 也 乃 也 乃 也

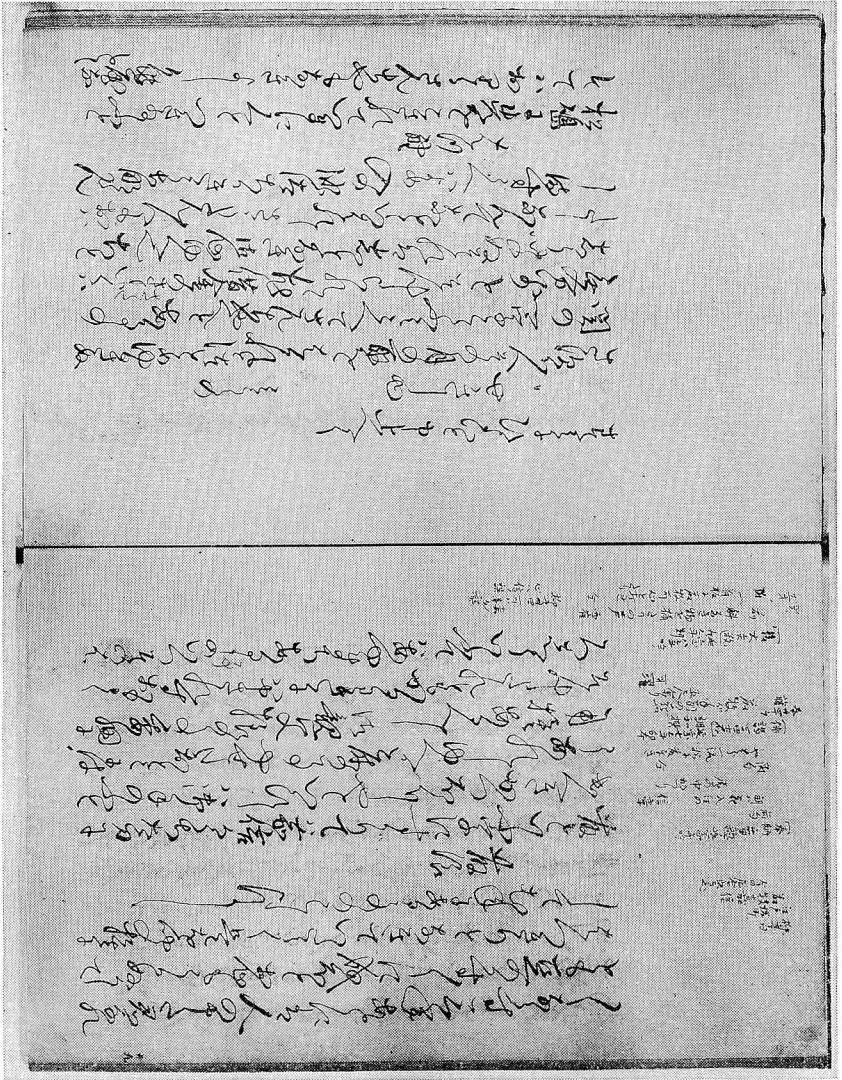


(327・337)

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The handwriting is dense and somewhat difficult to decipher.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the top section. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The handwriting is dense and somewhat difficult to decipher.

(337 • 347)



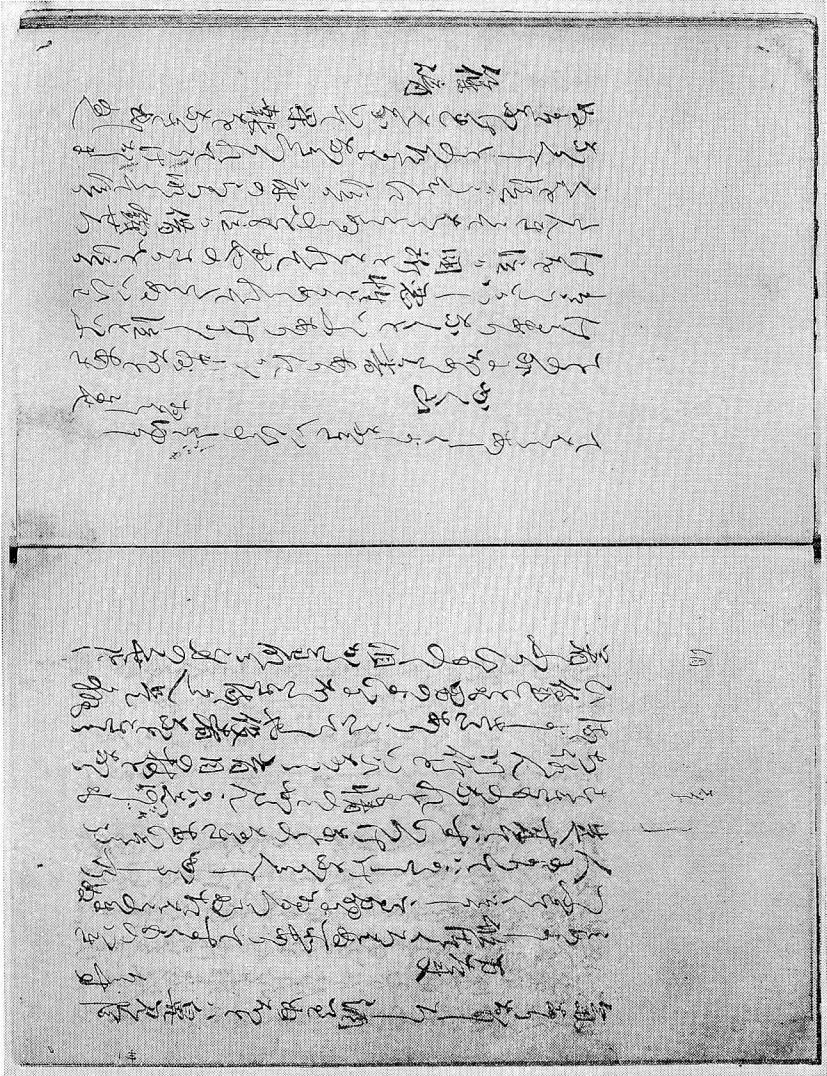
(347・35才)

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

五升

Handwritten text in a cursive script, continuing the document's content.

Handwritten text in a cursive script, located in the lower section of the page.



(367・377)

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

三

Handwritten text in a cursive script, continuing the document's content.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

四

Handwritten text in a cursive script, continuing the document's content.

(377 • 387)

Handwritten text in two columns, likely a list of names or titles in a historical document. The text is written in a cursive style and is difficult to decipher. The top section contains approximately 15 lines of text, and the bottom section contains approximately 15 lines of text. The text is arranged in two columns, with the right column on the left side of the page and the left column on the right side of the page.

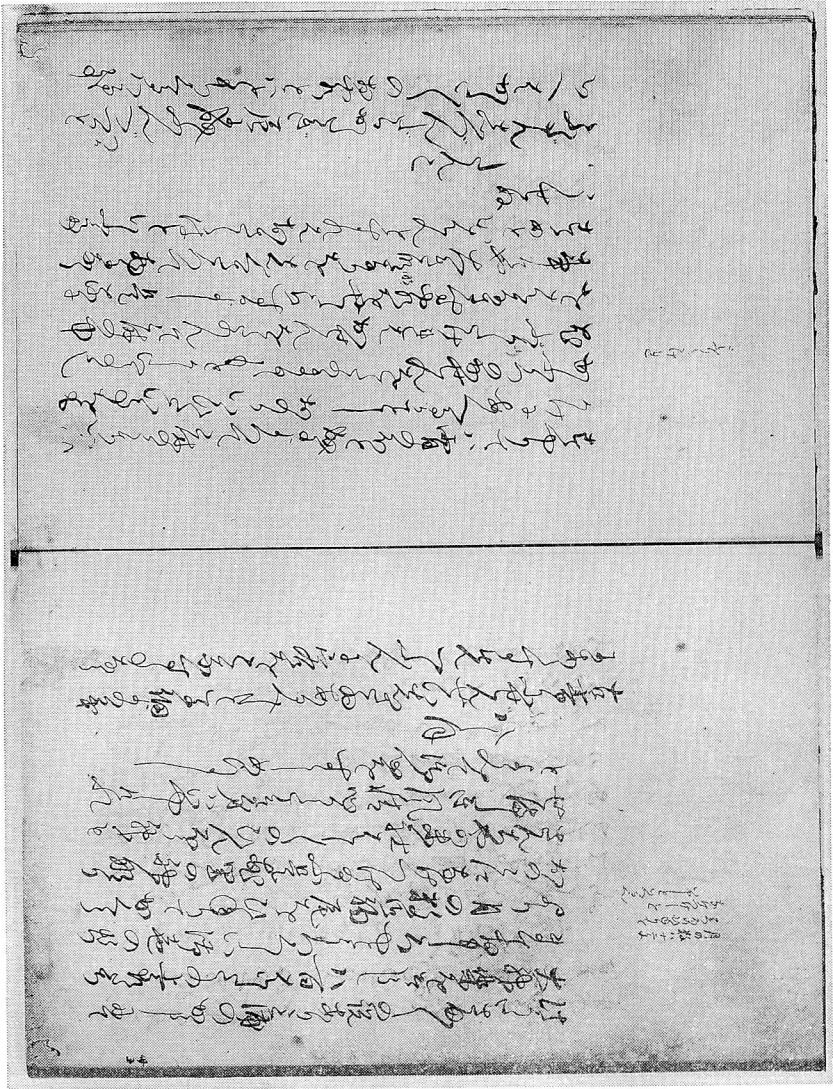
(387・397)

花
一
二

三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

(397・407)



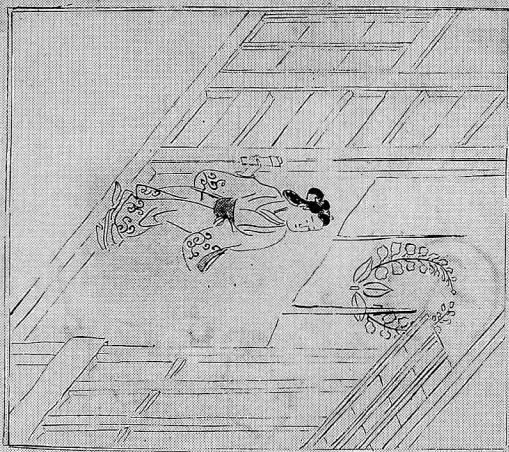
(407・417)

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the upper portion of the page.

Small handwritten notes or signatures located on the right side of the upper section of the page.

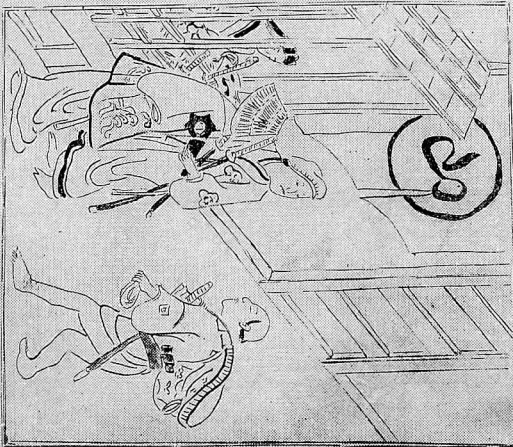
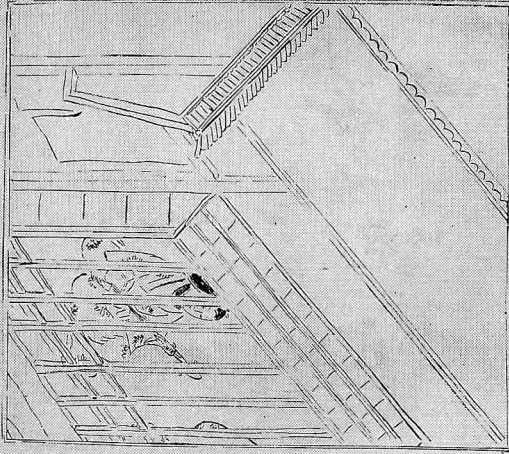
Handwritten text in a cursive script, continuing from the upper section. It is arranged in approximately 10 horizontal lines across the lower portion of the page.

(417 • 427)

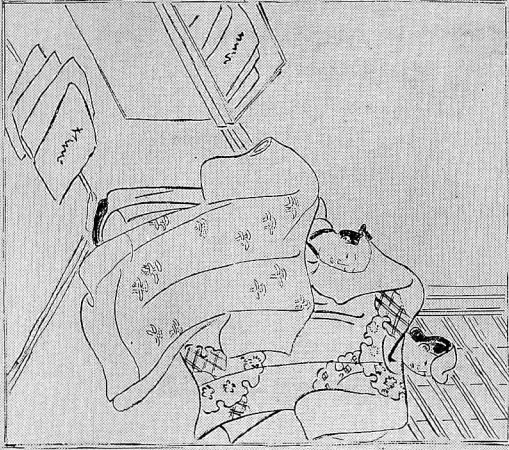


(42叶・43叶)

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the scene above. The text is written in a dense, flowing script.



(437・447)



(44フ・45フ)

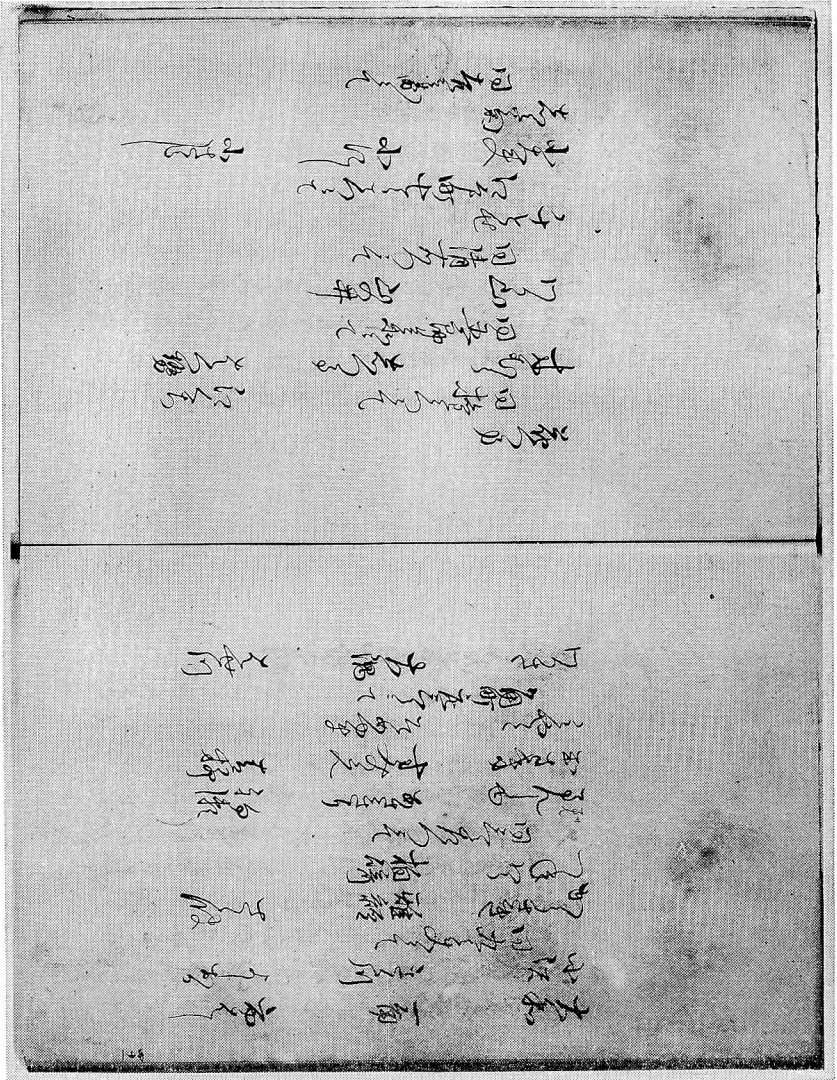
燒香の儀に於て玉子餅を
 焼くは、神に奉るに似たり
 玉子餅は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也
 神の御食は、神の御食也

註

玉子餅

源氏物語の巻名
 第一巻 桐壺御覽
 第二巻 桐壺御覽
 第三巻 桐壺御覽
 第四巻 桐壺御覽
 第五巻 桐壺御覽
 第六巻 桐壺御覽
 第七巻 桐壺御覽
 第八巻 桐壺御覽
 第九巻 桐壺御覽
 第十巻 桐壺御覽
 第十一巻 桐壺御覽
 第十二巻 桐壺御覽
 第十三巻 桐壺御覽
 第十四巻 桐壺御覽
 第十五巻 桐壺御覽
 第十六巻 桐壺御覽
 第十七巻 桐壺御覽
 第十八巻 桐壺御覽
 第十九巻 桐壺御覽
 第二十巻 桐壺御覽

玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅
 玉子餅

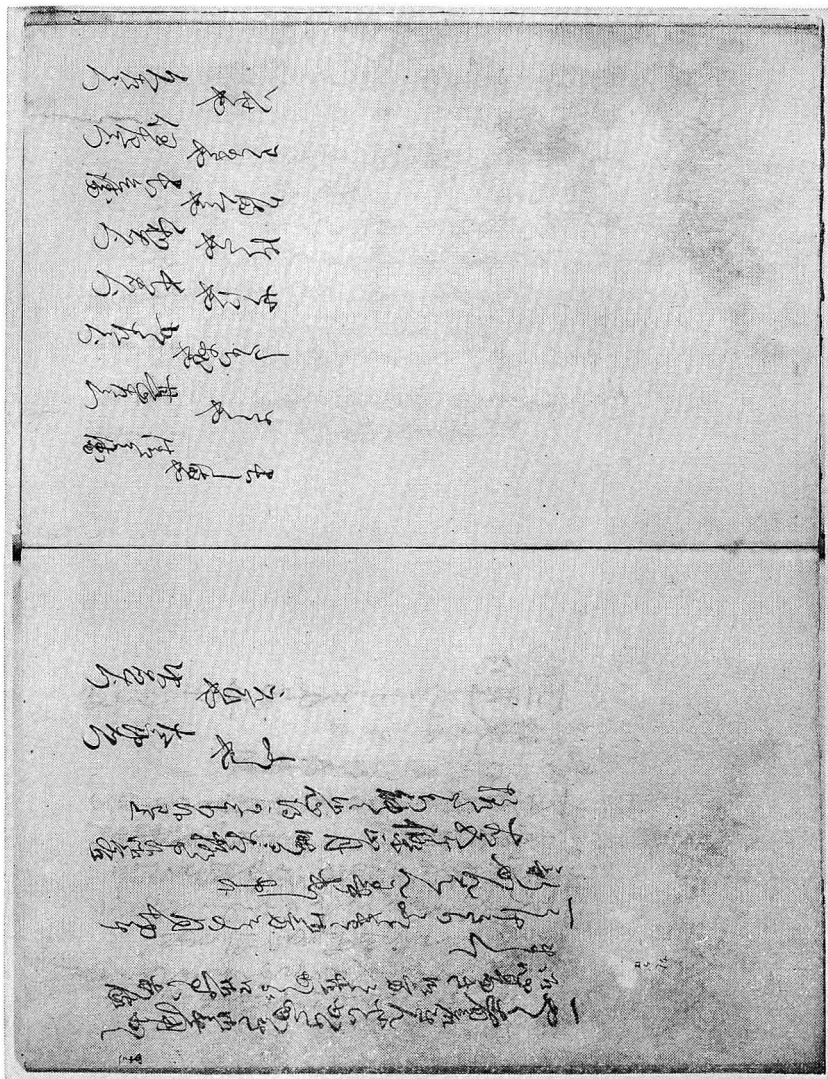


(469・47本)

二月十日...
 一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...

(477 · 484)

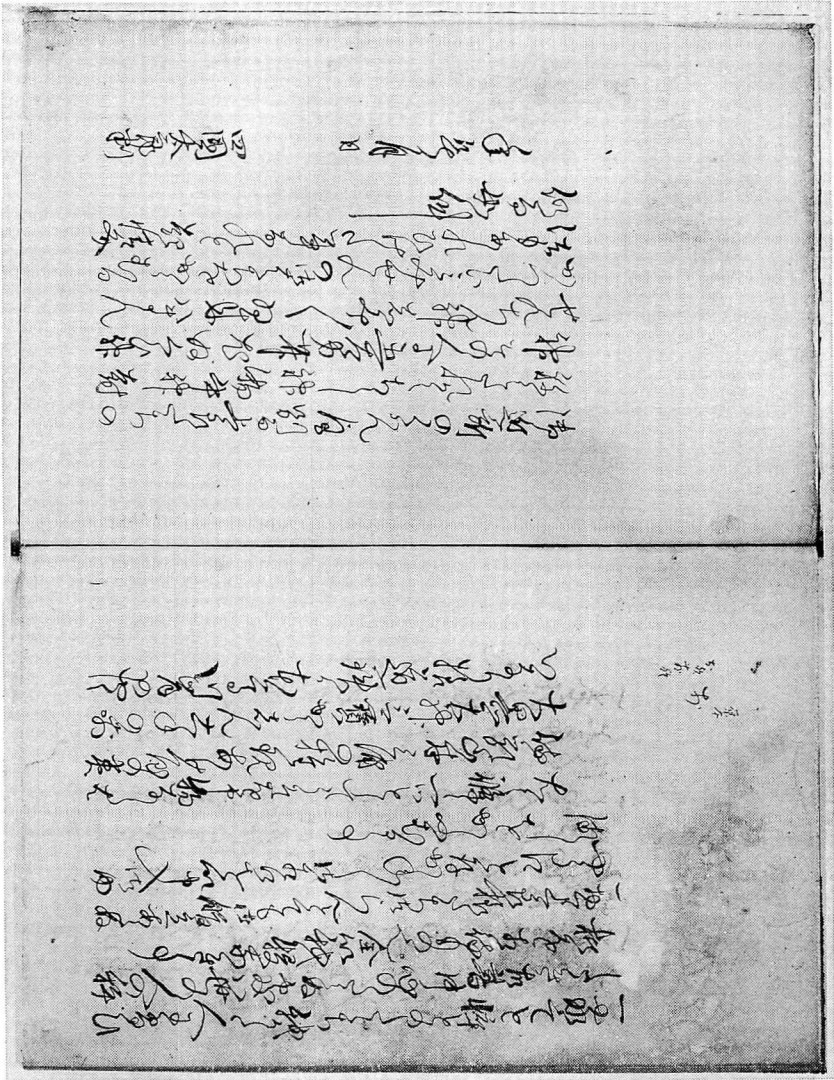


(487・497)

一、卷之三 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之二 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之一 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之四 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之五 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之六 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之七 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之八 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之九 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之十 張君雅堂先生遺稿

一、卷之三 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之二 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之一 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之四 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之五 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之六 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之七 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之八 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之九 張君雅堂先生遺稿
 一、卷之十 張君雅堂先生遺稿

(49 乙 • 50 乙)



(507・405)

皇清四百年

蘇高

皇清二十五年... 蘇高... 皇清二十五年... 蘇高... 皇清二十五年... 蘇高...

和實連角

不保庚子秋念三年有... 皇清二十五年... 蘇高...

1787

(裏見返し)

(517)

(裏表紙)

